



## 一人一人が輝く年長さん

年長さんの劇が、14日(土)に実施されました。幼稚園最後の劇ということで、多くの保護者の方に参観いただき、ありがとうございました。年長さんは、園舎建て替えの時期と重なったために、年少の時には旧園舎の遊戯室全体を舞台にして、熊さんのお家に泊まったり、ミキサ車を動かしたり、卵の中にかくれて楽しく遊びました。年中の時には、大きな中学校・高校のステージで演じ、そして、最後の年長では、やっと、自分たちの新しい遊戯室で演じることができました。3年間とも違った場所で演じたというのは、きっと前代未聞のことだと思います。舞台がそれぞれ違っていたことの良し悪しは別にして、年長さんは、いい経験をしました。

毎年、年長では、これまでの読み聞かせの中で一番心に残った絵本を劇にして演じています。今年の年長の3クラスは、なぜか、これまで演じられてきたお馴染みの話ばかりで、何年も本園に勤めている教師や卒園児をお持ちの保護者の皆様にとっては、やや新鮮味が欠けると思われたかもしれません。しかし、その時の子どもにとっては初めての経験で、新鮮なものとして受け止めていますから、年長になったら、「あれがしたい」「この役を演じてみたい」という思いを強く持つようです。

既に、今年の年中の子どもたちの中に、「年長になったら、絶対に『どろぼうがっこう』をやりたい」という声が聞かれました。それだけ、絵本の中の言葉の持つ響き、リズムカルで繰り返し表現され、覚えやすい言葉、そして、話の面白さなどに魅力を感じているからだと思います。

例えば、年長さんに人気のある「どろぼうがっこう」では、「抜き足、差し足、忍び足」という言葉があります。泥棒が静かに歩く時に使う日本古来の有名な言葉です。この言葉を発するだけで、自然にひっそりと歩き出したくなるから不思議です。この言葉以外に適切な言葉はありません。従って、話の中でもキーワードとなって、繰り返し出ています。教師はこれをうまく脚本に取り入れています。子どもたちは、この言葉をすぐに覚え、誰でもが熊坂先生や泥棒になり切って遊んでいました。↑



【ゆり組 どろぼうがっこう】

## 【うめ組 王さまと九人のきょうだい】



また、登場人物が多く、一人一人が主役として活躍するのが「王さまと九人のきょうだい」でしょう。人とは異なった特殊な才能を持って生まれてきた九人の兄弟が、悪い王さまを懲らしめる話ですが、子どもたちは、まるで仮面ライダーや〇〇レンジャーになったような気分です。登場してくるなり、得意のポーズを披露していました。練習の回を重ねるごとに、一人ひとりの決めのポーズに磨きがかかってきました。王様や家来の決め台詞も面白かったですね。

## 【さくら組 はだかの王さま】



さくら組の「はだかの王さま」は、老若男女の誰でも知っている有名な話です。年長ともなると、こうした長いストーリーでも興味を持って読めるようになり長いセリフも覚えることができるというところが凄いです。王様役の0君は、今年の2月に中国から転入してきました。転入当初は、日本語を全く話せず、担任の細かなサポートや周りの優しい友達の支えにより、毎日楽しく過ごし、笑顔で登園してきました。0君は、日々の生活で片言ずつ覚え、今では、日常生活では不自由なく話せるようになり、劇では、王様の役を見事に演じることができました。(拍手)

## 今年1年に感謝

21日(土)に年長の保護者の皆様のお力添えで、楽しい餅つき会を迎え、皆で美味しい黄な粉餅を食べました。園として、1年を締めくくりに相応しい行事を無事に終え、新しい年を迎えることができます。

今年1年間の保護者の皆様の温かいご支援とご協力に感謝申し上げます。